

地域の行事や土日のスポーツ文化の行事に参加することの意義

私が学級担任時代には、土日のイベントには必ず参加するようにしていました。管理職から言われた訳ではありません。ベテランや若手の少し上の先輩が率先して参加をされていたので、1年目から自然とそうしていました。その経験を通して私なりにその意義をまとめてみました。

学校では見ることのない子どもたちの新しい面が見られました。

「この子こんな明るい子だっけ」「学校ではしっかり者なのに、案外、保護者にべったりの甘えっ子なのだ」「地域にすばらしい挨拶ができる子なのだ」

学校では見ることのない保護者の方々の新しい面が見られました。

「地域で大きな役割をされている方なのだ」「あの保護者とこの保護者は家族ぐるみの関係なのだ」「違う学年の保護者の方に声をかけていただいた！」「どうもありがとうございます」

より多くの交流ができたこと、子どもたち（保護者の方々）の新しい面や意外な面などを発見できたことは、その後の学校での様々な関わりに大きなプラスとなりました。

学校では体験できない楽しさを共感することにより、より深い絆が生まれました。

「はいわかりました」「先生これやっつくよ」「ありがとう」「さすが さん」「それほどでも」
今までは、いくら指導をしても素直な反応を見せなかった児童が、特に生活指導の場面で驚くほど素直になりました。特に他の学級や学年の子どもたちがそうでした。ふだんは一筋縄ではいかない子どもたちのはにかむ顔に、行事に参加して良かったと実感しました。

地域・保護者の方に感謝をされました。

「先生ありがとうございます」「休みの日に子どもたちのためにわざわざ出てきてくださったのですね」「こちらこそ。お互い様です」「 さんの方こそ、お休みの所、地域の子どものためにありがとうございます」

互いの大きな心の結び付きを得ました。地域や保護者の方々も休日返上で子どもたちの健全育成に関わってくださっているのです。頭が下がりました。いつしか準備や片付けから関わるようになりました。地域や保護者の方から絶大な信頼をいただきました。

上記は、ほんの一部です。こんなこともありました。

学級担任をしている時に、いじめの問題が起きました。いじめられているとされる保護者の方と加害者とされている保護者の方からの激しい訴え。何度、話し合いをしても双方の訴えは平行線。解決に向きません。トイレに行く間もなく見守りをして、「今日もいじめられた」との訴え。毎日、双方の保護者からの電話や面談等の対応。あれだけ懐いてくれていた子どもたちでさえ、「先生は、いじめ問題で大失敗をしているらしいよ」と囁き、私から距離を置く子も見られるようになりました。いつ果てるともわからない日々に、「教師をやめよう」とさえ思い始めていた時です。

何名かの保護者の方が、「休日の地域の行事にいつも出て来てくれて、あんなに楽しく子どもたちと遊んでくれている先生だよ。お任せしようよ」と呼びかけてくださいました。心の支えになりました。また、それを契機として問題は解決への道を辿りました。

北西の地域・保護者は、学校を支援する熱意については、どこにも負けない地域です。土日の行事は、そんな方々と交流できる何ものにも換えがたい貴重なチャンスです。

7月27日（木）28日（金）は、地域恒例の「盆踊り大会」です。

願ってもない機会です。可能な方は、ぜひご参加していただき子供たちと地域と交流を深めたり、楽しんだりしていただけると幸いです！